

令和6年度 自己評価結果公開シート

学校法人 高槻双葉学園 学校関係者評価委員会

評議委員 ・外部評議委員 8名
・保護者 6名

令和6年度 学校関係者評価委員会実施実績

＊第1回学校関係者評価委員会
令和6年 9月25日(水) 14:00 出席 外部評議委員 5名
保護者 6名

＊第2回学校関係者評価委員会
令和6年 3月27日(水) 14:00 出席 外部評議委員 3名
保護者 6名

1, 本園の教育目標

『たくましいからだ と 豊かな心』

1. 調和のとれた人間性を育てます
2. 心身共に健康な子どもの育成を目指します
3. 知性と情緒豊かな感動を覚える子どもに育てます

2, 本年度重点的に取り組む目標・計画

自己点検・自己評価を継続して取り組む中で見えてきた全員に共通する着手の難しい課題に対して、原因を探り、その課題を解決する必要性を共有し、具体的な実践計画を立てて繰り返し取り組む中で、よりよい保育を確立していく。また、園内研修に重点を置き、園内の課題に全員が共通の認識を持つことができるよう努める。

3, 令和6年度重点事項 『家庭と園で子どもの園生活を共有する』

課 題	具 体 的 な 取 り 組 み 目 標
・食育活動の共有	・子どもたちが野菜など食材に興味関心を持ち、自身の健康保持・増進を意識した行動ができるようになる。 ・苦手な食材に対して、知識を得ることで、食べてみよう和前向きに挑戦する姿が増えること。 ・食を作る仕事をしている方の存在に気づき、食に関する仕事や役割に関心が高まっていくこと。 ・上記に関する発信を受け、園がどのような食育活動をしているかということをおおよその保護者が知っている状態になる。(90%以上の理解度を目指す)
・危機管理、安全意識向上に関する取り組みの共有	・日々の身体を動かす空間での経験を通して、身の回りにある危険や危険につながる環境を知り、対処しようとすることができる。(怪我への対処なども含む) ・避難訓練などを通して、緊急時の行動を経験し、慌てず行動をすることができる。 ・上記に関する発信を受け、園がどのような危機管理、安全意識向上に関する取り組みをしているかということをおおよその保護者の方が知っている状態になること。(90%以上の理解度を目指す)
・保護者参加型の機会を通しての共有	・保護者参加型の取り組み、機会について、令和6年度新たな試みができる。 ・保護者と園、保護者どうしなど、つながりができる機会が設定できる。 ・園の理念、考え方などに関する保護者の理解度が向上している。(90%の理解度を目指す)

3、中間報告（9月実施）

〈食育活動の共有〉

＊成果

- ・子どもたちが野菜など食材に興味関心を持ち、自身の健康保持・増進を意識した行動ができるようになる。
→各学年で野菜を栽培し、成長過程を観察した。毎日の水やり等の世話を通して、野菜に愛着を持つことができたことにより、食材に関しての興味感心も深まったように感じる。また、収穫した野菜は調理してもらい食べることができた。そこでは、管理栄養士の先生とのかかわりがあり、野菜を食べることが自身の健康保持に繋がることについても知ることができ、実際に食べることに意欲が強くなった。
- ・苦手な食材に対して、知識を得ることで、食べてみようという前向きに挑戦する姿が増えること。
→野菜栽培を通して、各クラスで様々な野菜についての掲示や情報提供を行った。答えを全て教授するものではなく、子どもたちが栽培・観察を通して興味を持った内容について更に調べたりすることができるような環境構成やかかわりを心掛けたことで子どもたちの探究する気持ちに深まりが見られた。
- ・食を作る仕事をしている方の存在に気づき、食に関する仕事や役割に関心が高まっていくこと。
→収穫した野菜の調理を子どもたちが自分で調理室に行き直接お願いすることができるよう、給食室とも連携をとり、子どもたちがかわることで先生以外にも食を作る人がいてくださることを知ることができた。普段の給食配膳においても、保育者だけではなく給食室から管理栄養士や調理員がかわることで、子どもたちと直接かわる機会を作っている。そこで自然に子どもたちが調理してくださった人と直接かわり話すことができることで、感謝の気持ちを持ったり伝えたりする場面が見られた。そういうことから、調理員さんがどのように作ってくださったのかなど、仕事内容についても話す機会を持つことができている。
- ・上記に関する発信を受け、園がどのような食育活動をしているかということをおおよその保護者が知っている状態になる。（90%以上の理解度を目指す）
→取り組みの内容に関しては、日々のInstagramや学年だより等を通して保護者に発信を行った。

＊課題

- ・管理栄養士の先生との連携や子どもたちとのかかわりの深め方について考え、できる事を実践していきたい。

〈危機管理、安全意識向上に関する取り組みの共有〉

＊成果

- ・日々の身体を動かす空間での経験を通して、身の回りにおける危険や危険につながる環境を知り、対処しようとすることができる。（怪我への対処なども含む）
→外遊びの際、年長児とは特に、どのような場面が危険であるかということと一緒に考えるように取り組んでいる。何が危険でその理由はどういうことかを自分たちで考えることが未然に防ぐ対処に繋がると考え、都度子どもたちと考えてきた。同じ場所であっても、未就園児の子がいる時など状況によっても危険なことは変わってくるため、わかるように話をした。
- ・避難訓練などを通して、緊急時の行動を経験し、慌てず行動をすることができる。
→毎月災害や不審者侵入など様々な状況を想定し、避難訓練を実施した。有事の際には、子どもたちが安全に行動できるように普段からの備えの取り組みが大切と考えているが、まずは保育者が的確かつ落ち着いた指示をしっかりと子どもたちに出せることが最も重要なことと考え、訓練前の確認と訓練後の振り返り・共有を行った。また、設備として、既存のさすまたに加え、同じくさすまたの「不動」を新しく導入し、業者の方による取扱い方の研修・実地訓練を行った。
7月には、寿栄小学校が取り組まれた不審者対応の避難訓練に研修として参加させていただき、園での取り組みを見直し改善に活かすことができた。
- ・上記に関する発信を受け、園がどのような危機管理、安全意識向上に関する取り組みをしているかということをおおよその保護者の方が知っている状態になること。（90%以上の理解度を目指す）
→毎月の避難訓練への取り組みについては、学年だよりにて内容とねらいを発信した。また、訓練の取り組みについてはInstagramにて、写真と動画でその様子を発信した。

＊課題 ・子どもたち自身が「危険」について考えることができるような取り組みを考える。（掲示も含め）

〈保護者参加型の機会を通しての共有〉

＊成果

- ・保護者参加型の取り組み、機会について、令和6年度新たな試みができる。
→教育説明会において、昨年度から実施を始めた「保護者参加型・ワークショップ形式」という形で実施することができた。参観においては、「保育参加型参観」を実施し、家庭内で複数の保護者に参加していただくことができるように時間交代を設けた。また、参加時間を固定していたところから、短時間の参加も可とし、少しでも参加しやすいよう取り組んだ。開催時間自体は延長し、給食を食べている様子も少し参観することができる時間設定にした。
- ・保護者と園、保護者どうしなど、つながりができる機会が設定できる。
→7月に「いのちと性のおはなし」という内容で、地域の助産師の先生にきていただき、「子育て支援」という形で在園保護者の方もご参加いただくことができた。会の最後には、自由に交流してもらうこともできた。教育説明会でも「ワークショップ」を取り入れ、保護者どうしが話してもらえる機会を作ることができた。行事サークル・幼稚園まつりボランティアでは、ご参加いただいた保護者の皆様どうしの交流を深めることができた。
- ・園の理念、考え方などに関する保護者の理解度が向上している。（90%の理解度をめざす）
→教育説明会等、園の理念や考え方についてお話する機会を設け、参加できない保護者の方に向けては、動画配信を行っている。ホームページでは、「園長通信」として、子どもたちの様子をお伝えしながらそこに園の理念や考え方を照らし合わせた内容を発信している。

＊課題

- ・就労その他、様々な理由がある場合でも、保護者が参加できる内容を考える。

〈アンケートフォームにて意見回収〉

＊重点事項の取り組みについて、「ここはいいですね」と感じられる部分をお答えください。

- ・食育活動の取り組みはとても素晴らしいと思いました。家庭ではなかなか、1から育てて、料理まで行うとゆう行程を行えないので素敵な機会を与えてくださってありがとうございます。食について考えることができるのは、有り難いですね。残さず食べようとしたり、嫌いなものに挑戦しようとする姿がみれてうれしいです。
- ・子ども達の園での活動をホームページやインスタグラムで発信してくれるので、実際に目で見て分かるし嬉しい。また子どもと一緒に見ながら会話する事が出来るし、子どもが振り返る機会にもなる。
- ・食育 自分で栽培することで食に感心を持つこと。
- ・取り組みが細かく分かりやすく目にみえてよかったです。
- ・〈食育活動の共有〉・子どもたちが”体験を通して”食材に興味関心を持てたこと。
 - ・食を作る仕事をしている方と関わること。
- ・〈保護者参加型の機会を通しての共有〉・「保育参加型参観」において短時間の参加も可とされたこと。
- ・栄養士や調理の先生と関わりを持つことができる。
- ・育てることで、苦手な野菜にも関心や食べてみようの気持ちを持つことができる。
- ・日々の遊びの中で危険について学ぶ事ができている。
- ・サークルやボランティアで保護者どうしの繋がりができる。
- ・食育活動、野菜に詳しくなっていて、専門の先生に話してもらうことが印象に残っているようです。保護者参加型、ワークショップ形式、参加してみても一対一の子育てと違い、発見があり、先生の怒らない対応の仕方など、学びもありました。交通安全、家で教える前に交通マナーを知っていて危ないことなどを教えてくれる。

***重点事項の取り組みについて、「ここをこうすればもっとよくなるかもしれない」、「こういう方法はどうですか」など、御意見やアイデアなどをお答えください。**

- ・保護者参加型の機会に関しては、ワークショップ等の開催は素晴らしいとは思っていますが、苦手意識が先行してしまい、参加の敷居が高くなってしまいました。気軽に参加できる参観等を増やしていただき、子供の幼稚園生活をみてみたいです。
- ・参加型参観の一環で、遠足に参加する事が出来る試み。
- ・懇談について 開催されるのが年度初めと年度終わりだけなので、中間にも開催してほしい。上半期、下半期で子どもの成長や今後の取り組みについて認識できる方が良い。
- ・参観について 昨年、参加予定日当日に子どもの体調不良で1回も参加できなかった。複数回の開催は難しくても、せめて振替や予備日を設けてほしい。
- ・ただ全体的に年中、年長向けの取り組みが多いかな？と思いました。もう少し年少向けの取り組みを入れてほしいと思います。例えば、〈食育〉の部分なら年中、年長の食材に対しての興味を共有するために一緒に触ったり作ったりするなど…
〈保護者参加型〉では年少の保護者は七夕、お祭りなどかなり参加が少なかったです。園からの説明だと正直分かりにくいのと、時間帯の案内など色々不安でやりにくいかな？と思います。やってみて時間、やること、が分かるためもう少し情報を教えてほしいです。
- ・Instagramの写真も出来るなら学年、もしくはクラスごとだと嬉しいです。年少さんは更新が少ないのももう少し増やして欲しい。メモリッジとは別で園の撮った写真などを販売するなどしたら嬉しいです。
- ・〈食育活動の共有〉
 - ・野菜以外の食材も取り上げる。季節の行事とつなげる。(節分に鰯を焼いたり、大豆から味噌を作るなど?)
 - ・管理栄養士や調理士さん以外にも食に関わる仕事をしている方とつなげる。(野菜栽培：近隣の農園を見学、実際に栽培してみてでてきた問題や疑問を質問する。玉ねぎを大きく育てるにはどうする?など)
 - ・育てた野菜の可食部以外の活用(生ごみになる部分を堆肥に。植物が土に変わることを知る。育てた野菜から種を取って植える。カボチャは芽が出やすいかも?)
 - ・食を入口にいろんな分野に広げていき、つながりを知る。(食べる→歯や体のことへ。作る→農家さんや食材を配達してくれる方へなど)
- ・〈危機管理、安全意識向上に関する取り組みの共有〉・保護者の参加は難しいでしょうか?
- ・〈全ての項目〉・保護者の理解度を上げるために、園からの発信以外の方法もあるといいかなと思いました。子どもたちの口から伝えるしかけを作る?保護者からの反応を聞ける機会が日常的にある?など。
- ・育てている野菜を使って、子どもと簡単に作れるレシピや、人気メニューのレシピの発信があれば嬉しいです。
- ・サークルやボランティアのメンバーは、だいたい同じメンバーなので、参加していない保護者も保護者どうしがコミュニケーションを取れる時間もあればいいなと思います。
- ・せっかくの園長通信、ホームページまでなかなか見ることがなく、気づいていない保護者もいます。ブレインでの発信があれば目にとまりやすいと思います。
- ・保育参加型以外に参観だけでもよいかたちもあつたら、自分の子以外の沢山の小さい子どもたちと遊ぶことに不慣れで、参加しにくい方も参加しやすくなるのではないかと思います。

***上記以外、その他取り組みで「いいですね」や「こうすればよくなりますよ」というアイデアなどがあればご記入ください。**

- ・学会行きました、双葉はこういったテーマでやりました、という報告はありますが、他園の発表からどのような気づきや取り入れたい取り組みがあったか具体的な報告が無い。
- ・ただの要望 よく配信されるお手紙に申し込みフォームのQRコードがあるが、自分の携帯で配信をダウンロードして開くと、自分の携帯でそのQRコードを読み込むことは不可能。QRコードと一緒にURLをちゃんと記載してほしい(たまに無い時がある)。
- ・いつも素晴らしい取り組みをお伝えいただきありがとうございます。高槻双葉学園で日々過ごしている子どもたちの成長がとても楽しみだと思えますし、そこに関わっておられる先生方や関係者の方々・保護者の皆さんが作っておられる環境が素敵だなと感じております。

実行可能かどうか分からない者が、好き勝手な意見を申し訳ございません。上記の回答の中で、すでに取り組みられていることがございましたらご容赦下さい。拙い文章、アイデアをお読みいただきありがとうございました。

今度ともどうぞよろしくお願いいたします。

- ・卒園式後の登園日は不要かなと思います。気持ちの切り替えがしにくいし、また登園すると思うと、卒園式で感動しきれません。
- ・鍵盤ハーモニカにもう少し力を入れて欲しいです。進学後、幼稚園や保育園でやっていて出来る子が多いので、子ども自身がしんどい思いをする事になります。
- ・縦割りクラスで遊ぶ事で、お兄ちゃんお姉ちゃんへの憧れや、自分より小さい子への気配りや思いやりの気持ちが育っていいなと思います。
- ・他クラス、他学年交流は刺激になっているようです。

【中間評価を受けて】

令和6年度学校関係者評価委員会の皆様方より、貴重なご意見の数々を頂戴し誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

令和6年度の重点事項は「家庭と園で子どもの園生活を共有する」というものとなっております。設定の背景としては、

①園での取り組み、経験を家庭とつなぐこと

②家庭で園の話題が増え、学びや経験がつながること

③保護者や地域の方々に園の取り組み（事実）だけではなく、背景（ねらい意図など）を含め知っていただき、安心感を得ていただきたいことなどを目的とし、この重点事項を設定いたしました。この重点事項の中には、「食育」、「危機管理/安全教育」、「保護者支援/保護者との共有」などの要素が含まれています。「食育」、「危機管理/安全教育」については、子どもたちにとって受け身で知識や技能を教え込む方法ではなく、経験や感情の揺れ動き（感動体験等）、そして興味がある、～を試してみたいなどの願いがある肯定的な展開を作り、子どもと職員が相互にかかわりあう中で学び、育つということを大切にしています。ご意見でもいただいておりましたように、後期に向けては、学んだことをより他の状況や内容につなげていくことや、その観点にかかわる人のことを知る（例：給食を作っている調理員さんの存在など）など、見えにくい部分にも興味を持つことができる展開を検討したいと思います。

また、「保護者支援/保護者との共有」についても、講演会など一方的な方向になりがちな構造から、双方向のやり取りが生まれる展開をめざして、試行錯誤を経た中で各活動を展開してまいりました。ただし、ご意見もふまえ考える中で、「様々なニーズが家庭によりあること」と「園として教育・保育の考え方や取り組みをお伝えし共有したい」ということのバランスを検討する必要があると考えます。

日々の保育を行う中での実施となるため、人的資源（対応する職員など）、環境的資源（使うことができる部屋など）との調整を経てになりますが、ニーズとねらいを調整しながら後期の取り組みについても検討を進めたいと思います。

令和6年度後期もどうぞよろしくお願いいたします。

4、年間報告（3月実施）

〈食育活動の共有〉

*成果

・子どもたちが野菜など食材に興味関心を持ち、自身の健康保持・増進を意識した行動ができるようになる。

2学期以降も、年中・年少は野菜の栽培を引き続き行った。年中児のさつまいも栽培では、目に見えない土の中で育つことに対し、想像し、予測する姿があり、予測して考える力が育ったように感じる。年少児も芽キャベツの栽培を通して、外遊びの時間に自ら観察したり、水やりをしたり、意欲を持って栽培活動を行っていた。興味が深まることで、「自分で聞きたい」「話したい」「知りたい」という意欲につながり、栽培している野菜以外にも、給食で食べているみかんの種類に興味を持って調べ、わかったことを他クラスにも発信しに行くなどの行動が見られている。年長児は「思い出メニュー」として、自分たちのリクエストメニューをクラスごとに考案する経験を通して、献立がどのようにして考えられているかや、栄養素について知り、健康な体をつくるためにどのような食事が大切であるかを管理栄養士の先生と一緒に考えることができた。

- ・苦手な食材に対して、知識を得ることで、食べてみようと同向きに挑戦する姿が増えること。

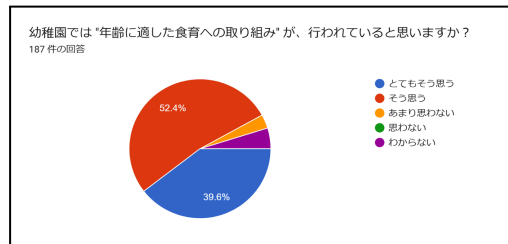
1年間の給食での食事を通して、栽培した野菜を食べたり、苦手で食べられなかったとしても、匂いをかいでみたり、なめてみたり、近くでみて見たりするなど、個人個人の成長が見られた。栽培してもうまく育たなかったものもあり、食べることができなかったものがあったが、その野菜についての栄養素を知ることによって、それが知識になり、給食の野菜を食べようとする姿にもつながった。

- ・食を作る仕事をしている方の存在に気づき、食に関する仕事や役割に関心が高まっていくこと。
- ・年長児の「思い出メニュー」考案体験では、管理栄養士や調理員という仕事について改めて知り、自分たちが食べている毎日の食事にも、どれだけの人がかかわっているのかを考えることができた。
- ・「食にかかわる仕事をしている人とつなげる」という観点において、食材がどのように届いているのか、そこにかかわる仕事をしている人について知ることができた。

- ・上記に関する発信を受け、園がどのような食育活動をしているかということをおおよその保護者が知っている状態になる。(90%以上の理解度を指す)

日々のInstagramでの給食についての投稿を管理栄養士が担当し、より専門的なコメントが発信できるようになった。子どもたちの様子や、感想なども伝え、人気のメニューについてはレシピも投稿した。

保護者のアンケートにおいて、食育に関して92%の方が理解をくださっている結果であった。



＊課題

旬の食材や季節の行事の「食」について、表示を作って掲示し、子どもたちと会話ができるようにした。

〈危機管理、安全意識向上に関する取り組みの共有〉

＊成果

- ・日々の身体を動かす空間での経験を通して、身の回りにある危険や危険につながる環境を知り、対処しようとすることができる。(怪我への対処なども含む)

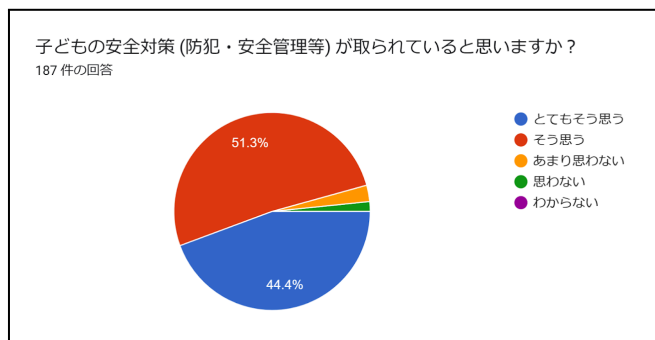
年長児には特に、自分の身体や運動量が大きく成長していることを話し、周りの状況を確認することやどのようなことに気をつけるのかなどについては特に話をするように取り組んできた。進学すると一人で行動することが増えることも年長児自身が意識できるようにした。

- ・避難訓練などを通して、緊急時の行動を経験し、慌てず行動をすることができる。

2学期以降も毎月様々な想定での避難訓練を子どもたちと一緒に実施した。12月からは、子どもと職員に訓練の日時を知らせずに実施することで、いつ起こるかかわからない災害や不審者侵入時に少しでも同じ状況下での訓練を行った。その中で、年少児も取り乱すことなく、1学期からの取り組みが活かされ、職員の指示を聞いて行動することができるようになってきている。年中・年長児は自分で考えながら行動することもできるようになった反面、慣れてしまい、私語が増える場面もあったが、振り返って話をすると、その次の回には静かに避難する姿が見られ、子どもたちもしっかり考えていることを実感することができた。

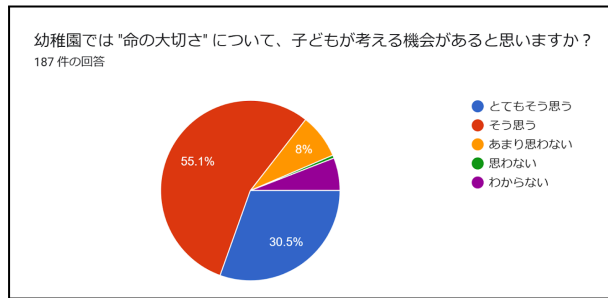
- ・上記に関する発信を受け、園がどのような危機管理、安全意識向上に関する取り組みをしているかということをおおよその保護者の方が知っている状態になること。(90%以上の理解度を指す)

保護者への発信は1学期から同様に取り組んだ。保護者アンケートでは、「子どもの安全対策(防犯・安全管理)が取られていると思うか？」という点は95.7%の方が理解いただける結果となった。



＊課題

「命の大切さ」について子どもたちが考える機会をどのように保護者発信していくか検討する



〈保護者参加型の機会を通しての共有〉

＊成果 ・保護者参加型の取り組み、機会について、令和6年度新たな試みができる。

進学・進級説明会では、保護者参加型としながらも、「ワークショップ形式は参加しづらい」という意見があったことも踏まえ、ワークショップ形式は行わず、教育方針や保育のねらい、そこからの子どもたちの育ちを説明させていただいた後に、全学年のクラスを参観していただき、その後に園長から、幼稚園での教育と小学校教育の違いや、進学後に必要な力がいかに幼稚園生活で育っているかなどを説明した。参加保護者は、前回よりも増加した。

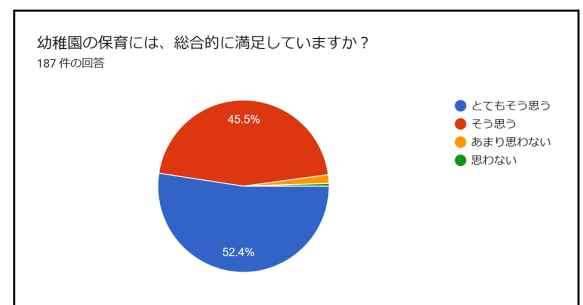
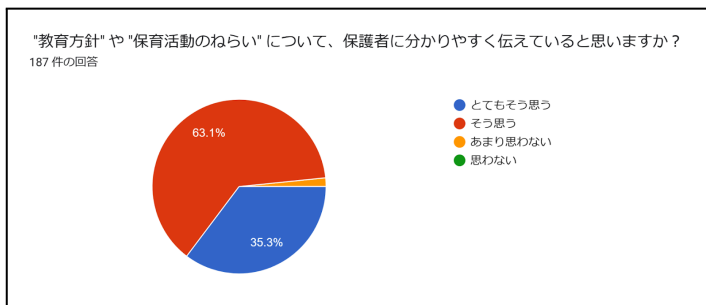
・保護者と園、保護者どうしなど、つながりができる機会が設定できる。

行事サークル活動の実施、幼稚園まつりのボランティア参加、パパスイッチの活動等、希望される保護者の皆様には参加していただける交流の場を持つことができた。

・園の理念、考え方などに関する保護者の理解度が向上している。（90%の理解度をめざす）

保護者への発信は1学期から同様に取り組んだ。「園長通信」については、「ホームページ掲載だけでは発信時期がわかりにくい」とのご意見を踏まえ、園だよりでQRコードを知らせ、すぐにアクセスできるように取り組んだ。

保護者アンケートでは、「"教育方針"や"保育活動のねらい"について、保護者に分かりやすく伝えていると思うか？」という点は98.4%の方が理解いただける結果となった。



＊課題

保護者参加の在り方について、引き続き、より良い方法を模索する

【評価を受けて】

年間にわたり、園の教育・保育にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。令和6年度の重点事項は「家庭と園で子どもの園生活を共有する」ということで令和6年度の取り組みを以下の通り総評として振り返ります。

【1】食育活動の充実

当園では、子どもたちが「食べること」を通して命の大切さや食や食に携わる方への感謝の心を育むことをねらいとして、さまざまな食育活動に取り組んでいます。単なる食事の提供にとどまらず、食にまつわる体験そのものを豊かにすることを大切にしています。前期には、年齢や発達に応じた野菜の栽培活動を行い、苗や種から育て、水やり、収穫までを経験しました。収穫した野菜を使って調理を行った際には、自分たちで育てた食材への愛着や「苦手だけどちょっと食べてみたい」

といった前向きな姿勢が見られました。また、調理室の職員が食材の話や調理工程について子どもたちに伝える時間を設けることで、厨房と保育室との距離が縮まり、食への興味や食材の成り立ちへの関心が育まれている様子が見られます。さらに、旬の食材を取り入れた給食メニューの紹介を通じて、季節を感じる機会にもつながっています。

今後は、地元や身近な食材への理解、世界の食文化などにも視野を広げ、「食」を通じて他地域や他者への興味・関心を高める取り組みを日常の保育の中でも取り入れながら進めたいと思います。また、ご家庭と連携し、家庭での食事の様子や好き嫌い、アレルギー対応などについてもより丁寧に情報を共有しながら、子ども一人ひとりの食体験を支えていきたいと考えています。

【2】安全への意識づくり

子どもたちが園生活を安心して過ごせるように、安全面においても継続的な取り組みを行っています。当園では「危険から守る」だけでなく、「自分で安全を守る力を育てる」ことに重点を置き、主体的な行動につながるかわり方を意識してきました。毎月実施している避難訓練では、火災・地震・不審者対応など様々な想定で訓練を実施し、実際にどのような行動をとるべきかを子どもたちと確認しています。ただ誘導するのではなく、「どうしてここに集まるのか?」「どんな音がしたらどうするのか?」など、一つひとつの行動の意味を子どもたち自身が考え、理解できるような声かけや振り返りの場を設けています。また、日常生活の中でも遊具の使い方、園庭での走り方、年下の友だちとの関わりなどにおいて「安全に過ごすにはどうしたらよいか」を一緒に考えることを大切にしています。特に年長児は、小さい子に優しく声をかけたり、危ない場面を見て伝えたりする姿も多く見られるようになっており、子どもたちの中に「危険に気付く力」が育ちつつあります。

職員間では、ヒヤリ・ハットの事例を定期的に共有し、未然に防ぐ体制づくりに取り組んでいます。また、安全に関する研修も行い、危機対応時の判断力や連携体制の強化にも努めております。今後も、子どもたちと共に「安全をつくる意識」を育てながら、保護者の皆さまと連携し、安心できる園づくりを目指してまいります。

【3】保護者との連携・共有

子どもたちの育ちは、園だけでなく家庭とつながる中でより豊かになります。そのため、私たちは保護者の皆さまとの信頼関係のもと、共に子どもを育てる姿勢を大切にしています。保護者の方との会話の中でも、子どもの姿や変化を丁寧に共有し合えるよう努めております。また、懇談では、お子さまの家庭での様子や心配ごと、園での姿などをお話しすることで、より深い理解と支援につなげる機会となっており、お時間をいただけることに感謝しております。

さらに、保護者参加型の活動（例：保育参加・講演会など）を通して、保育の現場を実際に見ていただくことで、園での過ごし方や子どもたちの関係性、保育者の関わりについても理解を深めていただければと考え実施しています。これらの機会には、保護者の方から「家では見られない姿が見られて嬉しかった」「先生たちの声かけに学ぶことがあった」など、温かい声を多くいただいております。また、保護者アンケートでは、日頃の園運営や保育へのご意見・ご要望を多数お寄せいただきました。食育や安全面の配慮に対する感謝の声とともに、保護者同士の交流の場がもう少し欲しい、家庭との情報共有の手段をさらに工夫してほしいといったご提案もいただき、今後、職員間で当園が持つ人的、物的資源に照らし合わせながら考えたいと思います。

今後も、保育の質の向上と安全で安心できる環境づくりを目指してまいりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

5, 令和7年度 重点項目

『一人ひとりの子どもの思いや興味関心を大切にする、あたたかい園づくり』

課 題	具 体 的 な 取 り 組 み 目 標
<p>保育者の「子どもを理解する」視点をさらに深める/保育の中で見取ったことをふまえて、個に応じた言葉がけやかかわりをめざす。(ヒトの観点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの言葉やしぐさなどから「何を感じ、考えているのか」という子ども理解の力をより高められるよう、園内外の研修受講を進めていきます。 保育のふり返りでは、「子どもの視点に立った場合、どうだったか」という視点をもって考えるようにします。 子どもへの声かけや関わりを保育者どうして見合って、「これがよかったね」など伝え合える時間を大切にします。 あたたかい言葉や雰囲気を生み出すことを、保育者自らも体験的に研修等で学び、その学びを日々の保育や保護者の皆様とのかかわりに活かしていけるよう努めます。
<p>子どもの選択肢ができる限り多様に存在する保育の展開/子どもの「やってみたい」が詰まった行事の展開をめざす。(コトの観点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 計画や振り返りで、日々の子どもの遊びや生活との連続性がみられる活動や行事になっているか確認する。 子どもの姿を1人の保育者の感覚だけで捉えるのではなく、複数の保育者で事実に基づいた見取りを行い、その保育活動や行事が、子どもにとってふさわしいか検討する視点・意識を持つ。 園や子どもの周りに存在する資源をふまえて、「どうすればできるか」と模索する姿勢をより持つ。
<p>子どもたちが「やってみたい!」と思えるような遊びの環境づくりをめざす(モノの観点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 安全で清潔な空間づくりを大切にし、その環境を保育者と子どもとともに作る展開をめざします。 季節や子どもの興味関心にあわせて、遊びのコーナーや素材・玩具を工夫します。 子どもに応じた環境的なアイデアを保育者間で互いに述べ合ったり、研修を通じて得た、知識やアイデアを園内で共有し、チームとしての環境構成の力をあげる仕組みづくり。

6, 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

幼稚園型認定こども園 園長 岡部祐輝